

令和元年度 公民館主催事業計画書

公運審提出日 令和元年10月23日

NO	実施公民館	事業名	事業目的	事業の趣旨	期間・回数	学習内容	主な講師等
1	柳沢	郷土史講座 御門訴事件150年 ～江戸から明治、この地域の人は何を考え行動したのか～	学習	令和2年に御門訴事件から150年を迎えるのを記念して、事件について学ぶ機会を提供する	12月15日から 令和2年1月26日 日曜日 全4回	・御門訴事件の背景、経過、その後を学ぶ ・御門訴事件を幕末維新期を民衆はどう生きたかという視点からとらえる。	孤島法夫・西田昭司・増田恵津子（御門訴事件を伝えてゆく会） 渡辺尚志（一橋大学大学院社会学研究科教授）
2	柳沢	子ども対象 書き初め講座	学習	対象別（①外国にルーツをもつ小学校3～6年生、②中学生）に、書き初めに取り組む講座を実施する。	①12月26日（木） ②27日（金） 各1回	・基本を学ぶ ・課題に取り組み、作品を仕上げる。	原 桃郷（日本書道教育学会師範）
3	柳沢	下野谷遺跡から学ぶ 現代につながる 縄文人の暮らし・知恵・芸術	学習・自己実現	縄文時代の優れた芸術に触れ、縄文土器づくり体験を通して縄文人の美と技を学ぶ。文化財として後世に伝えていく大切さを考える機会とする。	令和2年1月12日から 2月29日 土・日曜日 全5回	・下野谷遺跡について ・縄文時代について ・縄文土器づくり	西東京市教育部社会教育課職員 東京都埋蔵文化財センター職員

4	田無	映像から見る現代 見たことのない映像を観る	学習・自己実現	偏見や先入観を排して 映像作品を視聴し、感 想を語り合うことで 各々の価値観を豊かに する機会とする。	12月9日 16日 24日 月・火曜 日 全3回	・未発表の映像作 品を鑑賞する ・心が動いたシー ンや描写について 話し合う ・視点を共有し、 もう一度鑑賞しな がら会話する	渡邊一孝（映画プロ デューサー）
5	田無	料理講座 クリスマスにシュトーレン を作ろう	学習・自己実現	12月開催の料理講座の テーマである発酵食の パン編。個人では難し い本格的なパン作りを 学ぶ。共同作業をする ことで参加者同士の交 流を図る。	12月22日 (日)	・パンの発酵につ いて ・クリスマスパン にまつわる話 ・パン作り、試食	宇野幸世(パン講師)
6	田無	小中学生の書初め講座	学習・自己実現	地域の大人と子どもの 交流が少ない昨今、公 民館の活動を通して繋 がる場とする。普段馴 染みのない書道をきっ かけに伝統文化に親し む機会とする。	12月27日 (金)	・講義、模範書道 ・基本的な筆使い を学ぶ。 ・講師、仲間と作 品について感想を 共有する。	田無公民館書道サー クル「桜華会」会員
7	田無	異世代交流 小学生プログラミング体験 会 ～ロボットを、紙とマジッ クで自在に動かしてみよう ～	交流	「プログラミング」を 学ぶの楽しさを知ると ともに、小学生がさま ざまな世代のボラン ティアと交流する機会 となること。	2月11日 火曜・祝 日 ①午前10 時から ②午前11 時から 各1回	プログラミング教 育ロボット「オズ ボット」を用い、 パソコンのスキル がなくても学べる 「プログラミン グ」を体験する。	山賀紳司（講座「地 域から孤立をなくす ヒント2」の参加者 で、第1回(7/7実施 済)のプログラミング 体験コーナーを講師 とともに担当)

8	芝久保	子ども実践講座 書き初めに挑戦!	学習・自己実現	冬休みの課題「書き初め」に取り組むことを通して達成感を得るとともに、子ども同士や公民館利用者との交流を図る。	12月26日 (木) ①10～11時半 ②11～12時半 ③14～15時半 各1回	・基本的な道具の扱いと作法を確認する。 ・各自の書き初めの課題と名前を練習し講師が巡回指導する。 ・清書して仕上げる。 ・参加した感想を発表し合う。	伊藤邦子(書道講師、習字研究社検定八段高齢者施設で書道の指導をしている)
9	保谷駅前	子ども対象講座 アルキメデスへのとびら ～算数と友だち～	学習・自己実現	学校では扱わない興味を引く問題に触れることで、考えることの面白さ、算数の楽しさを体験し、思考力、表現力を養う機会とする。	①12月26日(木) ②27日(金) 各1回	・講義(クイズ形式を取り入れた学び)、参加者同士のコミュニケーションの活性化を図り、学ぶ楽しさを体験する。	友利将吾(私立武蔵高等学校中学校、数学科教諭)
10	保谷駅前	地域講座 瞽女唄が聞こえる	地域づくり	届ける社会教育として近隣地域の会場を使って、日頃あまり公民館を利用しない方たちに、公民館の事業を体験して貰うために新規事業として計画。	令和2年 3月5日 (木) ①11時～12時 ②14時～15時 各1回	講師の講和と実演を通して、視覚障がい者の旅芸人である瞽女の芸の深さとそのたくましい生き様を知る。また、下保谷には昭和の初期まで毎年3月には瞽女が来ていたという歴史を学ぶ。	小関敦子(越後瞽女唄伝承者)